

1. 製品・材料

(単位: mm)

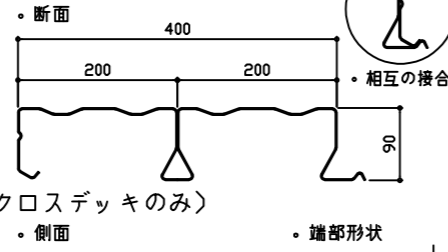
(1) 質量および断面性能

Table with columns for plate thickness (板厚), weight (質量), and section modulus (断面二次モーメント). Rows include 0.8mm, 1.0mm, 1.2mm, 1.4mm, 1.6mm, KP-ES-T, and AKZ.

(2) 使用材料

Table with columns for surface treatment (表面処理), minimum weight (最小付着量), and mechanical properties (降伏点又は耐力, 引張強さ).

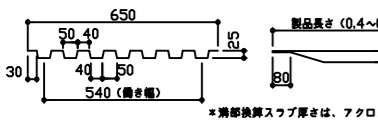
(4) 形状寸法



(3) 機械的性質(アクロスデッキのみ)

Table for mechanical properties of AKZ and SFPR, including yield strength and tensile strength.

※アクロスデッキについて(2)中のZ27-K27をご希望の場合は予め御相談下さい。



2. 設計・資料

(1) 断面耐力およびたわみの算定

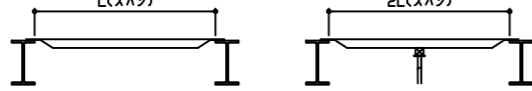
(1) 断面耐力の算定
アクロスデッキに作用する最大曲げモーメント (M) の算定式は下記による。
M = (1/8) \* W \* L^2 \* 10^9 (N・mm/m)
W: 施工時の鉛直荷重 (N/m^2)
L: スパン長さ (m)
断面耐力 (σ) の算定式は下記による。
σ = M / Zt (N/mm^2)
M: 最大曲げモーメント (N・mm/m)
Zt: 正曲げ用断面係数 (mm^3/m)

(2) 許容スパン算定条件

- (1) 許容応力度: f\_b = 235N/mm^2
(2) たわみ許容値: δ\_a = 1000 \* L / 180 + 5.0mm
(3) たわみ算定用係数: C = 1.0 (板厚0.8mmの場合のみ C=1.1)
(4) 作業荷重 (W3): W3 = 1,470 又は 2,450 (N/m^2)
(5) エンドクローズ強度: チェッキ端部の反力がエンドクローズ強度 ePa を上回らないことを確認して下さい。 Pe = W \* L / 2 \* ePa
(6) 許容圧縮荷重: アクロスデッキリブ許容圧縮荷重は下表の通りとする。

Table showing allowable compression load (許容圧縮荷重) for different deck plate thicknesses (0.8, 1.0, 1.2, 1.4, 1.6 mm).

※スパン (L) の取り方



【スラブ厚さ別許容スパン早見表】

(施工時作業荷重 1,470N/m^2)
単位: mm (ただし10mm単位で切捨て表示)

Large table showing allowable span (許容スパン) for different slab thicknesses (120, 130, 140, 150, 160, 170, 180, 190, 200, 250, 300 mm) and deck plate thicknesses (0.8, 1.0, 1.2, 1.4, 1.6 mm).

※上記の※印はデッキの曲げ降伏により許容スパンが決定しております。
※段差部などスラブ厚が300mmを超える場合は、ご相談ください。
※改良等のため予告なく変更する場合があります。ご利用の際は最新版をお取り寄せください。

3. 施工手順

(1) 計画

- (1) 工法、応力、たわみを確認し、割付図(施工図)を作成する。
(2) 鉄骨や型枠の工程を十分考慮して施工計画を立てる。

(2) 搬入・養生

- (1) アクロスデッキにワイヤー係、あて傷がつかないように、また、デッキの形状保持、防錆、安全に十分注意を払って搬入、養生する。
(2) 鉄骨梁や型枠の上に仮置きする場合、過度の荷重がかからないように分散配置し、また、梁から落下しないように十分養生する。

(3) 敷き込み

- <S造>
(1) 敷き込み前に必ず梁上を清掃する。
(2) 柱廻り、梁接合部、梁段差部にてデッキ受け材が施工図通り取付けられているか確認する。
(3) 割付図に従いアクロスデッキを不陸のないように敷き込む。
(4) アクロスデッキをアークスポット溶接により梁へ接合する。アークスポット間隔200mm(幅方向)、900mm(長手方向)
(5) アクロスデッキ相互の接合はスライド方式になるので通常の場合、溶接は必要ありません。
(6) アクロスデッキと調整板との接合部はアークスポット溶接とする。(φ900)

(4) 切断・孔明け

- (1) 切断はガス、アズマ、電動のこ、グラインダー等を用い、また、孔明けはホールソー、ドリル等を使用してアクロスデッキの材質・形状を損なわないよう行う。
(2) アクロスデッキを切断する場合、下部作業の安全、他デッキ・梁等の養生に十分留意する。
(3) スリブ等の開口は原則箱抜き型枠とし、コンクリート硬化後にアクロスデッキを切断する。

(5) その他

- (1) 中間サポートをする場合、大引きがデッキのむくりに拘束しないように設置する。
(2) チェッキスパンが短くスラブが厚い場合、デッキ端部の強度や中間サポートする場合の大引きに対するデッキリブ底面の支圧強度を事前に確認する。

4. 標準納まり

S造(鉄骨造)の場合

Grid of 20 diagrams (1) to (20) showing standard construction details for S-structure (steel frame) cases, including deck length, width, and support details.